

【エクアドル内政・外交：2014年12月】

1. 内政

(1) コカコード・シンクレア水力発電所建設現場での事故

ア 13日にコカコード・シンクレア水力発電所(注)建設現場で生じた事故により13名が死亡, 12名が負傷した。

イ 14日, コカコード・シンクレア公社は, 「12月13日午後8時30分頃, 水力発電所建設現場の立坑において発生した事故により, 中国人作業員3名およびエクアドル人作業員10名が死亡した。すでに事故の原因究明のための調査を始めており結果は適切な時期に公表される」と発表した。

ウ 建設を請け負っているSHINOHIDRO社(中国)関係者の証言によれば, 深さ600メートルの立坑で水が噴き出し, 70名の作業員が巻き込まれたということである。

エ 事故発生後ただちに危機管理庁(SGR)が海軍, 警察, 消防隊, 保健省から構成される緊急部隊を派遣, 救助活動を開始した。犠牲者の遺体は, (事故現場近くの)ヌエバロハ市の遺体安置所に運ばれた。12名の負傷者は, 近くの病院に移送されたが, 重傷者3名はキト市内の病院に移送された。

オ 14日午後, アルボルノス電力再生可能エネルギー大臣およびポベダ戦略部門調整大臣が被害確認のため事故現場を視察した。

(当館注)エクアドル政府が総力を上げて取り組んでいるコカコード・シンクレア水力発電所建設計画は, ナボ県とスクンビオ県の県境付近に国内電力需要の36%をまかなう1500メガワットの水力発電所を建設する計画である。中国からの融資を得て2010年から建設をはじめ2016年に竣工予定となっている。総工費は22億4, 500万ドル。

(2) 大統領および主要都市市長に関する世論調査

ア 24日付当地エル・テレグラフ紙(政府系)は, コレ大統領および主要都市市長の支持率等に関する世論調査結果を報じた。

イ 世論調査会社のオピニオン・プブリカ社(政府系)は, 最近12ヶ月間の大統領に対する支持率を公表した。エクアドル史上例のない8年以上に及ぶ長期政権を維持している大統領は, その支持率は依然として高いものの同期間中に14%減少していることが明らかになった。2014年1月は85%だった大統領の支持率は, 12月には71%に, また大統領を支持しないグループは13%から27%に増加した。

ウ オピニオン・プブリカ社による世論調査では, 72%がロダス市長を支持しているが, CMS社(政府系)の調査では同市長の支持率は53%にとどまっており, 支持しないグループは36%となっている。

エ オピニオン・プブリカ社が10月に行った調査では, 46%が憲法修正による三選禁止規定撤廃に反対している。また, 60%がこの問題を国民投票にかけることに賛成している。

オ 同社の調査によれば今日選挙が行われれば, 40%以上がコレ大統領に投票するとしてい

る。ラッソ氏およびロダス・キト市長がそれぞれ15%の支持を得ているが、いずれもコリア大統領には及ばない。

カ また、若年層を中心に15%が新しい大統領候補を求めている。

2. 外交

(1) 国際セミナーの開催

ア 3日及び4日、グアヤキルにおいて国際セミナーが開催され、リカルド・パティーニョ・エクアドル外務大臣、エルネスト・サンペールUNASUR事務局長、ルラ・ダ・シルバ前ブラジル大統領、CAN, MERCOSUR, CEPAL, 太平洋同盟代表等が出席した。

イ パティーニョ外務大臣は、UNASURのこれまでの成果として、組織の制度化、民主主義の擁護・主権の尊重、南南協力の推進などをあげつつも、これからの課題として、①貧困撲滅、②天然・自然資源保護、③低コストによる生産マトリクス強化、④コネクティビティを重視し、経済の付加価値を与えるインフラ整備、⑤平和地域の拡大、⑥投資分野における紛争解決システム構築、⑦新たな金融システム構築、⑧市民参加プロセスの強化、⑨コミュニケーション手段の民主化などをあげた。

ウ サンペールUNASUR事務局長は、UNASURとしては、南米諸国は、3つの軸(連帯、補完性、南米市民)を中心に統合に向けて協働する必要があると強調した。

(2) UNASUR特別首脳会合

4日、UNASUR特別首脳会合が開催され、ホセ・ムヒカ・ウルグアイ大統領、オジャンタ・ウマラ・ペルー大統領、ミチェル・バチェレ・チリ大統領及び5日にUNASUR本部開所式に出席した首脳が出席した。首脳会議では、スリナムからウルグアイへのUNASUR議長国(PRO TEMPORE)の移管が行われ、過去の統合に向けての動きを振り返り、さらなる統合に向けて各国の政治的な意思が必要であるなど今後の方向性について意見交換が行われた。

(3) UNASUR本部開所式

ア 5日、キト市郊外に建設されたUNASUR本部の開所式が、加盟国各国首脳等の出席の下行われた。

イ 開所式出席者

ラファエル・コリア・エクアドル大統領、クリスティーナ・フェルナンデス・アルゼンチン大統領、ジル・マルセーフ・ブラジル大統領、エボ・モラレス・ボリビア大統領、フアン・マヌエル・サントス・コロンビア大統領、ニコラス・マドゥーロ・ベネズエラ大統領、デシレ・ボータッセ・スリナム大統領、サムエル・ハインズ・ガイアナ首相、オラシオ・カルテス・パラグアイ大統領、エルネスト・サンペールUNASUR事務局長、リカルド・パティーニョ・エクアドル外務大臣、マウリシオ・ロダス・キト市長。

ウ 開所式スピーチ

(ア)サンペールUNASUR事務局長

南米諸国は、3つの軸(連帯, 補完性, 南米市民)を中心に統合に向けて協働する必要がある。その意味で、南米諸国における相互連帯, 特にコロンビアの和平プロセスへ連帯を表明する。また、貧困問題への対処の協力, 経済面でインフラの整備, 南米旅券の発行, 共通通貨発行に向けて努力すべきである。

(イ)フェルナンデス・アルゼンチン大統領

キルチネル元大統領が南米統合において果たした役割を評価し、南米が協働して統合に向けて努力していくべきである。右統合過程においては、選挙により選ばれた者のみならず、若い人々が参画していくべきである。

(ウ)コレア・エクアドル大統領

(i)エクアドル国民を代表して、各国首脳を歓迎する。本日は、南米の統合の歴史の中で重要な日である。アンデス地域で特別な意味合いがあるこの赤道の地点にUNASURの新本部が開所できてうれしく思う。これは、シモン・ボリバル、サン・マルティン、ウゴ・チャベス、ネストル・キルチネル等南米の指導者の夢が実現したものである。

(ii)スリナムからウルグアイへUNASUR議長国が移ったことを歓迎。ムヒカ・ウルグアイ大統領の愛国的、連帯的な功績を評価。モラレス・ボリビア大統領、ルセーフ・ブラジル大統領、バスケス・次期ウルグアイ大統領についてはメディアや経済エリートに打ち勝って国民の信頼を得たことに祝意。

(iii)南米は多様性があり、常に結びついていた大陸であった。今、地域統合を強化する時期に来ている。南米が一つの声を発信する時である。南米統合を妨げる勢力もあるが、統合プロセスを遅延することはできない。サンペール新UNASUR事務局長の下で真の統合を進めていきたい。南米での和平の達成、民主主義、人権の尊重、社会格差の是正、貧困の撲滅を達成すべきである。

(iv)約4億人の人口、1600万平方キロメートル、世界のGNPの6%を占め、世界の食糧生産地域等である南米はさらなる団結しなければならない。南米開発銀行の成立、外国通貨よりも地域の通貨による決済を進めなければならない。

(v)南米の貴重な天然資源の責任ある開発を考えなければならない。人材育成、教育、科学技術、イノベーションを進めなければならない。

(vi)ネオ・リベラリズムには注意しなければならない。先進国の資本家を優遇する投資相互保障協定は変えなければいけない。南米での投資に関する紛争解決メカニズムの導入は急務である。南米が一つになって先進国のブロックに対して我々の利益を擁護しなければならない。

(vii)本部ビルは、エクアドルの努力による建設であり、単にUNASUR事務局や各国常駐代表のためだけではなく、南米の市民、エクアドルの市民のためのものである。モダンなビルだけではなく、環境や緑に配慮したものである。これが南米の統一のシンボルとなる。アルゼンチン大統領で初代UNASUR事務局長であったネストル・キルチネル氏に改めて敬意を表する。

(4)エクアドル・コロンビア首脳会談

ア 15日、サントス・コロンビア大統領がエスメラルダス県リオベルデ市を訪問し、両国の間で首脳会談及び第3回閣僚会合が開催され、交通・インフラ、治安・防衛、経済、経済・貿易、国境問題、環境問題、文化・社会の6つ分野における二国関係の進展について話し合われた。

イ コレア大統領は、開会式において、サントス大統領が国内で進めている和平プロセスに関しエクアドルの支援を再度約束した。また、対コロンビア貿易赤字が12億9千ドルにまで到達していることに言及し、外的要因が両国の経済関係に影響を及ぼしていることに触れつつも、二国間の協力によって困難な時期を乗り越えるべきと発言した。

ウ オルギン・コロンビア外務大臣とパティエーニョ外務大臣との会談が実施され、二国間関係に関し、両大統領は報告をうけた。特に、交通・インフラの分野ではマタヘ川の国境橋の建設の調査及び設計が実施されたこと、また国境問題では、国境県であるカルチ県、エスメラルダス県及びスクンピオ県およびコロンビア側の国境都市において情報センターを9箇所設置したことが確認された。また治安・防衛分野では、国境を結ぶ2つの交通網が新たに開通し、両国の国軍が配置されたこと、経済・貿易分野では衛生対策委員会が設置され、さらに環境分野では、両国の国境地帯に位置するチレスおよびゼロ・ネグロの噴火が懸念されている中、二国間の協力によって、その火山活動が随時モニタリングされていることが確認された。また、文化・社会分野では両国の奨学金付与の成果があったことを確認された。

(5) キューバと米国の外交関係正常化へ向けた動き: 外務省プレスリリース

ア 17日、当国外務省はキューバと米国の外交関係正常化へ向けた動きを歓迎するプレスリリースを発表した

イ 対外政策の原則に基づき、エクアドルは、外交関係は国際法の規則、国家主権の平等性、互いに対する敬意、介入ではない協力を基礎とするものであるべきだと考える。

ウ エクアドルは、米国において不当に投獄された人々について特別の注意を払ってきた。エクアドル政府は、米国において投獄されるべきでなかった3名のキューバ市民が解放されたことを歓迎する。エクアドル政府は、同様に16年にわたり彼らの不在に苦しんだ家族の方々との連帯を表明するとともに家族、そしてキューバ国民とその喜びをともにする。

エ エクアドルは、キューバと米国の外交関係正常化に関する発表に満足するとともに、ハバナとワシントンに大使館が設置されること、在米キューバ人からの送金規制が緩和されること、米国からの物とサービスの輸出が拡大すること等を楽観的に見ている。

オ エクアドルは、キューバに対する不法かつ最悪な封鎖を解除させることを遅れさせるわけには行かない。(キューバに対する封鎖解除は)キューバ・米国関係の正常化および国際法の規範を尊重するという枠組みにおいて米州関係の建設的な発展に貢献するだろう。

カ エクアドルは、2013年5月にカルタヘナで開催された(米州)サミットにおいて表明したように、兄弟であるキューバ国民の出席なしに米州サミットはないということを改めて述べるとともに、パナマで開催される次回サミットにおいて我々の兄弟国であるキューバ国民とその政府に再会するという画期的な出来事が実現し、我々の歴史ある絆が強まることを確信している。

キ エクアドルは、キューバと米国の関係改善におけるローマ法王とカナダ政府の尽力と支援に謝意を表明する。

ク 最後に、エクアドルは、キューバと米国の関係が前進したことに祝意を表す。